

パブリックデザインと沿道景観要素の関係に関する研究

(美術教育講座デザイン研究室) 千代田 憲 子

A Research into the Relationship of Publicdesign and Elements of Rordsidescape

Noriko CHIYODA

(平成24年6月5日受理)

1. 研究の目的と背景

関係者からは待望されていた景観法の制定により、各地で景観計画や景観整備が進んでいるが、逆風も多いのが現状である。その理由として、理解が進んでいないことも挙げられるが、従来の景観整備のあり方の画一的な側面や、整備後に地域住民が感じる微かな違和感があるのではないだろうか。整備された部分が元々の景色に馴染まず息づいていない。生きていないのである。微細な違和感も含めて「何か違う」「しっくりこない」「書き割りのような」「テーマパークもどき」と頻繁に耳にする言葉である。

本稿では、地域において長い年月の蓄積を経て形成された景観である生活景〔生活の営みが色濃く滲みでた景観、地域風土や伝統に依拠した生活体験に基づいてヒューマナイズされたながめの総体〕(注1)に着目して、その要素を分析することにより、地域が持つ歴史の文脈を重視した景観整備が進むための方法を検討したい。

地域の特色に基づいた多様な生活景を取り込んだ活動や整備が進んでいる事例を対象として、地域と行政と利用者の立場からの意見を聴取し、良好な景観を形成するために必要なパブリックデザインと沿道景観要素の関係を考察する。

2. 研究、調査の方法

2.1. 対象地の選定

地域住民が景観の価値を共有し、良好な景観を望んで守り育てており、平成17年「美しい日本の歩きたくなる道500選」にも選定されている^{みのう}耳納山地北麓の福岡県久留米市田主丸の通称「^{やまづと}山苞の道」の全長約5キロメー

トルの区間とする(図1)(図2)。

2.2. 活動主体へのヒアリング

「山苞の道」の概要と現状や活動を詳細に把握するために、「山苞の道」の活動主体である「山苞の会」元会長(平成24年3月交代)と事務局長にヒアリングを行う。

2.3. 行政へのヒアリング

行政の施策やサポートを把握するために、久留米広域市町村事務組合(構成団体は久留米市・大川市・小郡市・うきは市・大刀洗町・大木町)事務局と久留米市商工観光労働部 観光・国際課にヒアリングを行う。

福岡県南部地区の拠点都市である久留米市は、2011年春の九州新幹線鹿児島ルート^のの全線開業と新駅開設に向けて、観光振興施策に取り組んできた。旧浮羽郡田主丸町は、平成17年2月の合併により久留米市に統合されているが、近隣地区とともに福岡県南部地区の観光振興のための企画や案内パンフレットが充実している。

田主丸地区や山苞の道を紹介した諸種の案内パンフレットのうち、秀逸していると思われるものの発行元である2団体とした。

2.4. 来訪者へのアンケート

例年11月2～3日に山苞の道全域で行われる「来て見てん山苞の道」(図2)の期間中に、廻り終えた来訪者を対象にアンケートを実施する。拠点のうちの4箇所「山苞の会本部」「山苞の駅」「田主丸町ふるさと会館(JR田主丸駅内)」「游心館」の協力により、アンケート用紙と回収ポストを設置して行う。



①耳納連山と葡萄果樹園



②耳納連山と植木緑地園



③山苞の会告知板



④統一された看板類



⑤山苞の駅（案内・休憩・トイレ）



⑥山苞の会本部（古墳公園）

図1 山苞の道概要

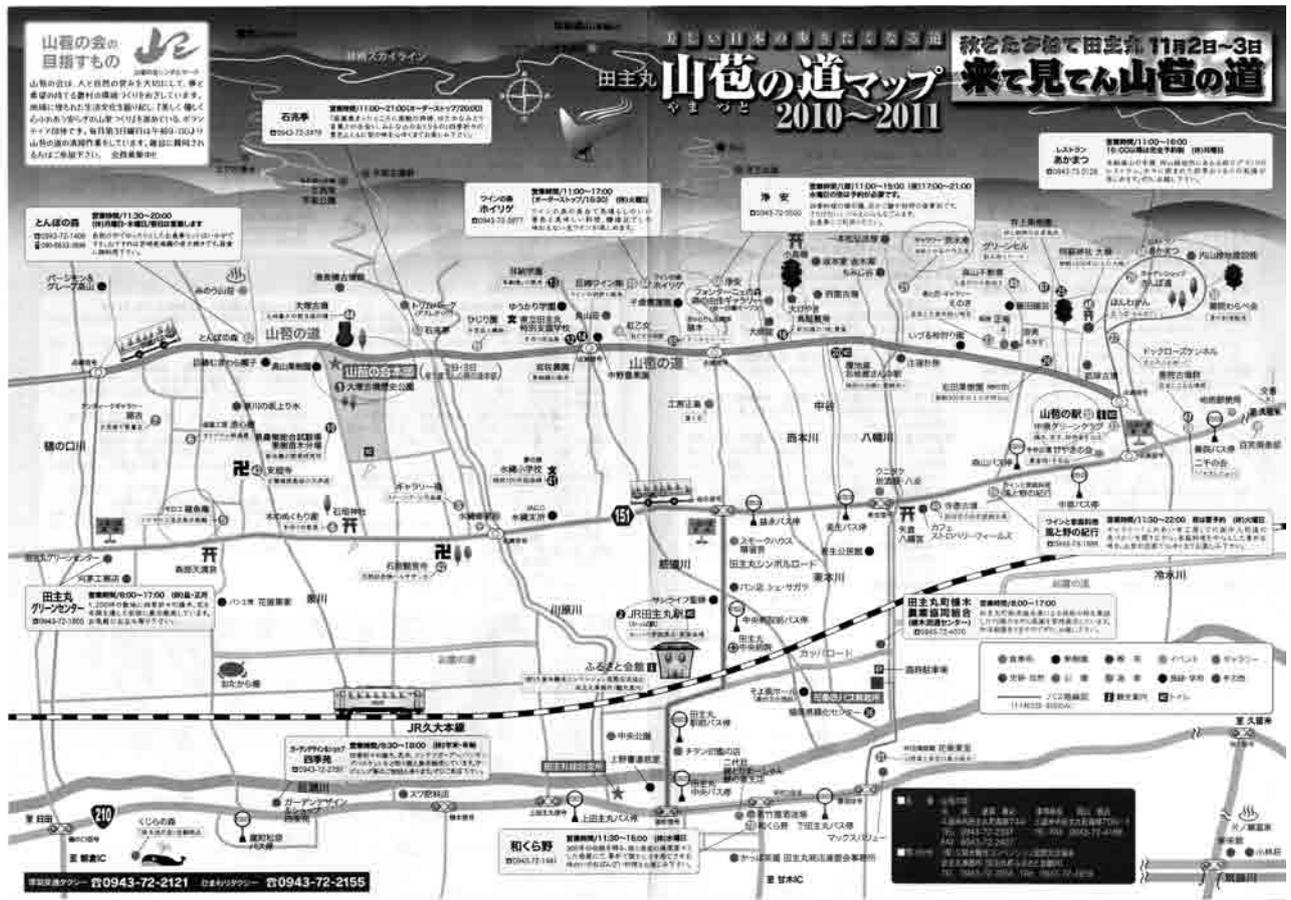


図2 山苞の道マップ

3. 研究の結果

3.1. 対象地域の概要と現状

福岡県久留米市は、高速道路を利用すれば福岡市中心部からも約30分の距離であり、福岡市と北九州市に次ぐ県下3番目の人口約30万の都市である。久留米市南部に位置する田主丸地区は、福岡県南部の耳納山地北麓の気候を活かした果樹栽培と植木の産地であり、そこから派生した観光果樹園やワイナリーなどを核とする産業が続いている（図1, 2）。

また、山苞には、各種支援学校や施設も点在しており、地域の拠点病院やJR久留米駅も近い。移動手段の基本は車利用ではあるが、久留米市中心部や福岡市への通勤圏でもあるために、新しい住宅地も開発されている。さらに、古い家屋に手を入れて移り住む工芸作家やギャラリー・飲食などに関わる新しい住民も増えつつあり通り沿いの賑わいも増している。通勤等の抜け道として交通量も多く、歩道整備も進みつつある。

3.2. 活動主体へのヒアリングの結果と分析

平成23年3月に、版画工房・ギャラリー「游心館」を訪問し、元会長倉富敏之氏と事務局長高山堅治氏にヒアリングを行った。

「山苞の会」の活動は、平成5年の耳納山麓美術館建設運動が始まりであり、平成6年に前身である「美術館の実現を考える会」が発足した。まずは、文化的な意識を高めるために美術館にふさわしい愛称を農免道路につけようと平成7年に公募から選ばれた、「山苞の道」（源氏物語賢木の巻の一節 山苞にもたせ給えり紅葉・苞はカヤやワラに包まれた土産物の意）にちなんで「山苞の会」と改称した（図1, 2）。

平成8年「来て見てん山苞の道」の初回イベントから、コンサートやミュージカルに至る多彩なイベントを重ねており、「来て見てん山苞の道」は、平成23年で17回を迎えた。

その間、平成9年に国土庁・財団法人農村開発企画委員会共催の第12回農村アメニティコンクール「特別優秀賞」の受賞をはじめとして、平成17年には「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれ、平成18年久留米ふるさと市民賞（久留米市）、平成19年地方自治法施行60周年記念総務大臣賞と数々の受賞を重ねており、近年では視察の受け入れも増加しているという（注3）。

3.3. 行政へのヒアリングの結果と分析

平成23年8月に久留米市広域市町村圏事務組合と久留米市商工観光労働部の観光・国際課にヒアリングを行った。

久留米市広域市町村圏事務組合では、ふるさと振興事業の一環としてパンフレットの作成を行っており、構成団体の四市三町（久留米市・大川市・小郡市・うきは市・大刀洗町・大木町）の郷土料理・特産土産・体験観光を三段重ねの行楽弁当に模したパンフレットは秀逸であったが、いわゆる点を紹介する形式であるとして、現在は線で紹介する方法に移行しており、モデルコースを掲載したパンフレットを作成している。「山苞の会」の活動と特段の関連はないということであった。

久留米市商工観光労働部の観光・国際課では、地域資源を活用した観光振興として、体験交流型の新しい観光商品の開発や、豊かな食文化を活かした観光振興に取り組んでいる。また、JR久留米駅周辺から「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選定された耳納山地北麓を活用した観光地づくり事業を推進するために、平成18年度から「歩きたくなる道推進事業」を立ち上げて、観光マップづくりと散策ツアー「ほとめき歩き」を実施している。（ほとめきはときめくにあたる方言）該当する田主丸地区「山苞の道」の森部・益生田・地徳の3コースは初年度から実施されている（注2）。

長崎の「さるく博」（さるくはぶらぶら歩くにあたる方言）や別府の「温泉博」の成功事例を参考にして、民間のネットワークを形成しながらレベルアップをはかり、それぞれの活動がNPOでの活動に移行することも視野にいられている。作成されたマップは財産であり、今後はファンを増やすことが課題と考えている。「山苞の道」の地元は、景観に対する意識の高い地域と捉えており、その主体性を尊重して他の地域へのサポートとは異なるアプローチをとっていることもあり、活動に特段の関連はないということであった。

以上より、先進性を持つ活動として認められており、行政はむしろ見守るスタンスである。また、活動主体の希望でもあるようだ。

3.4. 来訪者へのアンケートの結果と分析

マスコミで取り上げられる頻度が増すにつれて知名度も高まっており、来訪者も増加傾向にある。「山苞の会」

の全面的な協力を得て、4カ所以外の関係各所でも積極的に回答を促して頂いた成果により、アンケートの回答総数は241となった。

3.4.1. 回答者の属性

性別は女性が約7割で、年齢は60代以上が約5割、ついで30-50代が約3割であった。住所は市内が約5割で、職業は主婦が約4割であった。頻度としてはリピーターが約7割を超えている。リピーターの高さと共に、初めての人が約4分の1で、良好な循環が保てている。

60代以上の地元の主婦が友人と同行して、コアのリピーターとなっていることも伺える。また、スタッフの皆さんにも積極的に回答して頂いた結果も若干反映されていると思われる(図3)。

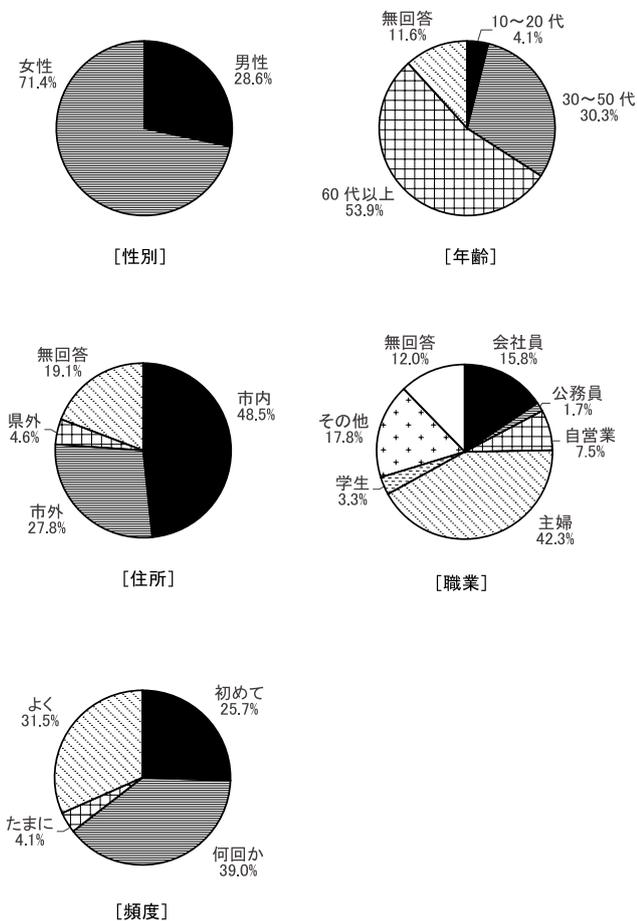


図3 アンケート結果 回答者の属性

3.4.2. アンケート結果

問2-7の回答は、選択肢のその他の項目に記述が多く、詳細に検討した結果、選択肢の分類項目に追加するほうが適当なものもあり、追加したものを併せたパーセ

ンテージとした。また、その他の項目への具体的な記述も多く、示唆にとんでいると思われるので列挙した。

1) 問1 本日は、「山苞の道」までどの交通手段を利用しましたか？(複数回答可)

約7割が自家用車である。駐車場の準備もあるので、駐車後に回遊バスや徒歩で散策した来場者も多いと思われる(図4)。

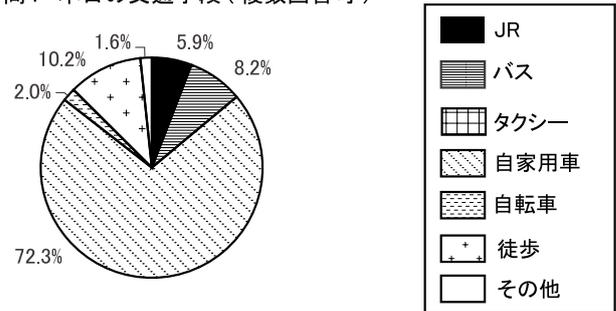
2) 問2 「山苞の道」を何でお知りになりましたか？(複数回答可)

約3割が知人からで、他の方法と比較して口コミの割合は高い(図4)。

その他の回答数計60の内訳は以下のとおりである。

- 以前から 40 (地元住民 20 / 昔よく通った / 昔会員だった / 毎年だから / 道ができたときから)
- マスメディア 15 (新聞 12 / TV 3)
- 地元メディア 4 (有線 3 ラジオ)
- ここに来て 7 (ドライブ中 3 / 柿狩り 2 / ウォーキング 2)
- 所属機関 4 (学校 2 / デイケア 1 / 久留米大学 流域講座現地学習ツアー)
- 町中 4 (みんくるの裏の案内 / 緑化センター / 看板)
- コンベンションに電話
- 業務

問1 本日の交通手段(複数回答可)



問2 「山苞の道」を何で知りましたか？(複数回答可)

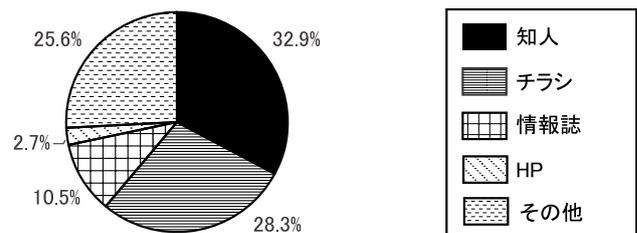


図4 アンケート結果 問1-2

3) 問3 どんな目的で来られましたか？(複数回答可)

約4割が景色・散策であり、催し、ギャラリーと続く(図5)。

その他の回答数計7の内訳は以下のとおりである。

- 授業・講義の一環 2
- ウォーキング大会
- この道を通りドライブ
- 通り道
- なにがあるかわからないけど一応きてみた
- 適当に

分類項目の催しと喫茶・食事に追加した中には、安く良いもの／手工芸品等の販売／植木／手作りの食品／焼肉のたれを毎年／道端の野菜や、いもまんじゅう／柿の木の下のお弁当／ブタ汁とむかごご飯など、非常に具体的な目的が示されていた。

4) 問4 一番印象に残った場所やものごとは何ですか？

約5割が景色・散策と答えている。問4は複数回答の設定ではなかったが、他の問が複数回答であったためか複数回答者が多く、複数回答も含めた集計結果をBとして比較した。

割合にさほどの違いはないが、複数回答では、喫茶・食事が増加している(図5)。

A その他の回答数計5の内訳は以下のとおりである。

- 友人寄り 2
- 別になし 2
- 紅乙女(ごま焼酎の工場散策とショップ)

分類項目の景色・散策と催しやギャラリーに追加した中には、公園・道路がきれいになった 2／芝生が綺麗／展望台からの眺め／内山緑地の巨木や買い物・フリーマーケット／柿・つけもの／クイズ、ヒナモロコ・いろんな魚がおもしろかった 2／游心館でのひとときなど、非常に具体的な印象が示されていた。

B(複数) その他の回答数計7の内訳は、上記に

- ふれあい 2(人情が厚いこと／人情あふれる会話)が追加されていた。

5) 問5 次回訪れたい場所やものごとは何ですか？(複数回答可)

景色・散策以外が全て伸びており、次回への積極的な参加の意思表示ともいえる(図5)。

その他の回答数計3の内訳は以下のとおりである。

- 別になし 2
- わからない

分類項目の催しと喫茶・食事に追加した中には、山苞の会本部 2／小物や野菜の販売／買い物(手づくり)／売り物／道端のおばちゃん達の野菜／出店や内山緑地のおでん・子どもはワッフルなど、非常に具体的な記述が示されていた。

6) 問6 残して欲しいもの、変わってほしくないものは何ですか？(複数回答可)

分類項目の景色・散策と果樹園を併せると約6割となり、最も重要なポイントといえる(図5)。

その他の回答数計4の内訳は以下のとおりである。

- 汚れない空気！
- 地元の人々の笑顔と美味しい物
- そこに住んでる人の元気・笑顔
- わからない

分類項目の景色・散策に追加した中には、特にこの景観／現在のもの／あまり開発せず、今のまま自然を大切に／山苞の道などが記入されていた。

7) 問7 今後期待することは何ですか？(複数回答可)

催しの充実に対する期待が高い。具体的な回答は少なかったものの、その他の項目への回答が約1割あり、更なる展開への期待が感じられる。また、現在は皆無の宿泊施設への期待も4%あった(図5)。

その他の回答数計5の内訳は以下のとおりである。

- 変わらないこと 2
- 子供たちに残してほしい
- そこに住んでいる人の元気・笑顔
- 春も

分類項目の景色・散策に追加した中には、このままの自然／自然を壊さないようなどが記入されていた。

3.4.3.自由表記に関して

回答者241名の約3割にあたる85名122の活発な意見からは、今後期待される点も見えている。票の多い順にならば、良好な意見と要望に分けて表にまとめた(表1)(表2)。カテゴリとの関連をプロットしたが、重複したものもある。カテゴリは、まずハードとソフトに二分して、ハードのカテゴリは、自然・景観と交通・整備とし、ソフトのカテゴリは、企画(催しやギャラリー

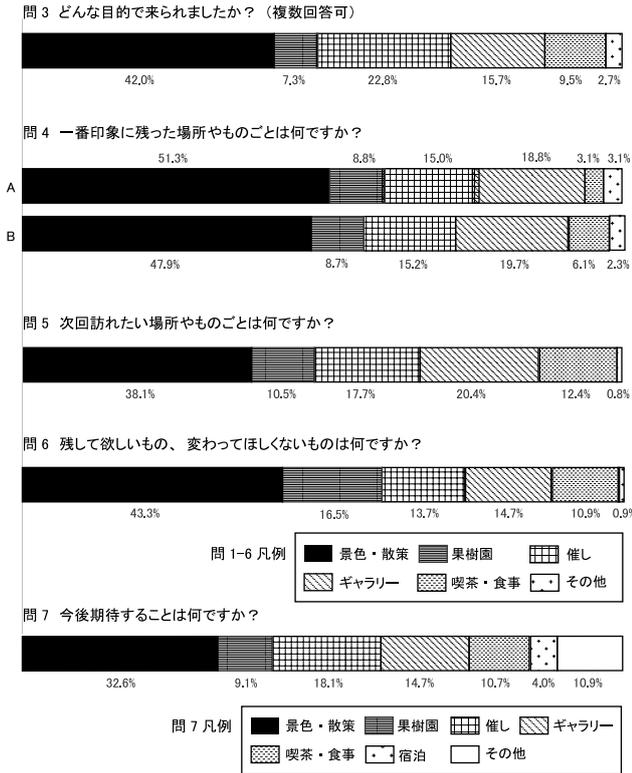


図5 アンケート結果 問3-7

と喫茶・食を含む」とふれあいと総合・その他を設けた。

良好な意見数58, 要望の意見数52, どちらにも含まれない意見数12である。良好な意見には、企画と自然・景観に関するものが多く、総合的に捉えた感想や評価も多かった。ふれあいに関する意見も興味深く、「ほっこり」「素朴」「ゆっくり」なども重要なキーワードといえる。要望には、交通・整備などのインフラに関するものが多く、企画の更なる展開への期待も高かった。

どちらにも含まれない記述は以下のとおりである。

- ・初めて来た 4
- ・昔と今の壁を取っ払って頑張るって
- ・90歳老齢で散歩道
- ・まだギャラリー、喫茶等を全て体験していない
- ・今からいろいろ見せてもらう
- ・近所に住んでいるのに来ることがなかった
- ・よくドライブで来ている
- ・地域の元気が一番の観光
- ・早めに出かけて来た！

表1 良好な意見

	自然・景観	交通・整備	企画	ふれあい	総合・その他	意見	票数
1					●	楽しかった	7
2	●				●	山苞を子孫に残したい	6
3			●		●	いつも楽しみにしている	3
4				●		接待がよかった	3
5			●			食べ物が美味しかった	3
6	●					景色が素晴らしい	3
7	●				●	散歩を楽しむのに丁度よい	3
8	●					空気もきれい	3
9			●		●	継続してほしい	3
10			●			素晴らしいイベント	3
11					●	また来たい	2
12					●	ありがとうございました	2
13			●			野菜果物安くて良かった	2
14				●		親切な皆さんの地元を愛する様子にほっこりした	2
15					●	素朴な感じが良い	1
16					●	愛媛でもやってみたい	1
17					●	ゆっくりした気分になる	1
18	●		●			食事・景色・ギャラリーと揃って良い	1
19			●			ラッキーな買物に巡り会う	1
20		●				福岡から日帰りですと遊びに来るのに良い	1
21			●			喫茶、ギャラリーが楽しみ	1
22				●		人との関係が気持ちいい！	1
23					●	田主丸町が大好きです	1
24			●			ギャラリーですてきな絵を見せていただいた	1
25					●	田主丸に生まれてよかった	1
26					●	とても良かった	1
27	●					山の上の建設会社さんトイレありがとう	1
計	16	2	18	6	32		58

表2 要望の意見

	自然・景観	交通・整備	企画	ふれあい	総合・その他	意見	票数
1			●			もっと色んな出店を増やして	7
2		●				駐車場を作って	4
3			●			ちょっとさびしい	4
4		●				案内地図／マップ／標識わかりやすく	3
5		●				バスが不便	3
6		●				Pわかりづらい	2
7			●			ある程度メイン会場に集めて	2
8			●			メイン会場出店3件は少ない	2
9		●				宿泊施設がない	2
10			●			会場がバラバラ	2
11		●				バスの運転手が迷って驚いた	2
12			●			おつけものがあったら100%	1
13				●		知り合いにだけ漬物サービスで気分悪かった	1
14		●				山苞にかな文字が必要	1
15			●	●		平日しか来れない	1
16		●				本部の下に降りる階段に片方でも手すりがあると良い	1
17					●	PRをもう少し頑張って	1
18					●	もっとお客様が多ければ作品作りに頑張れると思う	1
19		●				トイレに汚物入れがなくペーパーの補充もなかった	1
20		●				家族連れも多いのでベビー用簡易ベッドがあれば良い	1
21			●			本部のイベントがあれば集客数があがると思う	1
22			●			地元の幼稚園／保育園などのお遊戯会など催し物がほしい	1
23			●			絵画／アート展示などあれば	1

24					●	おすすめの場所や食事するところを教えてください	1
25	●					川を美しくして欲しい	1
26				●		山苞の道しかない「お土産」が必要。東／中心／西の3か所の拠点側で2回にわけて来れるように	1
27	●					神社等もう少しきれいに	1
28		●				アスファルト／歩道の整備	1
29	●					以前は静かな山あいの町	1
30	●	●				歩道ができて自然がこわれた	1
計	4	22	23	1	4		52

3.5. 結果のまとめ

ヒアリングの結果から、「山苞の会」の主体性と類い稀な実行力が伺える。また、地域に根付いて受け継がれた堅固な独自性と多彩なタレントも擁して結実しているといえよう。

アンケートの結果からは、景色・散策を魅力のベースとして、催しやギャラリー、喫茶・食事と揃っていることが魅力の要因であることが明らかであるが、問3の目的と問4の印象を比較すると催しとギャラリーの割合が逆転しており、問5の次回訪れたい場所や物事では、景色・散策以外全て伸びている。景色・散策に満足した上で次回へつながる感触があると思われる。

また、問6の果樹園のパーセントが他の問いに比べて高いのは、景色・散策と一体化した重要な要素として捉えられていると思われる。問7でも問6と同様に景色・散策のパーセントが他に分散しているが、特に催しへの期待が伸びている。

自由表記には、具体的な要望も数多く出ており、今後の活動に貴重な示唆を与えているといえよう。また、カテゴリーに分けられない、総合的な意見も多かった。

リピーターが今後も継続し、若い世代や、遠方からの都会的なサービスに慣れた来訪者を広範囲に誘致するためには、マニュアルによるサービスでは味わえない素朴なおもてなしの良さを見失わないことが重要であろう。また、今後の沿道景観の整備には、ユニバーサルデザインの視点もさらに必要になるであろう。現在は、正式に登録していない路上の出店にもおおらかに対応している

が、本部の賑わいを取り戻すためにも、何らかの検討が必要になるのかもしれない。

物産展は他の機会があり、歩いてほしいという主旨であるが、買い物やおみやげへの楽しみも来訪者は強く持っており、この点が車での通行を誘発し、路上駐車問題にも関わってくる。もう一点は、全域の距離の問題であろう。約5キロメートルの区間は歩いて楽しむ距離としては長く、空間のまとまりとしても2-3に分かれる。無料の回遊バスが2台準備されているが、初めての来訪者にとっては利用の仕方がわかりにくい点もあり、のんびりした気分になりたい一方で時刻表を見て予定や見通しをたてたい現代人の性でもあろう。

4. 考察と提案

4.1. 「山苞の道」の魅力と沿道景観要素

まず、眺望や開放感を伴った把握しやすい地形であり、生活に根ざした人の営みを感じるやさしい自然と景観というしっかりした核のあるハードの存在であろう。そして、催しやギャラリーや喫茶・食事がソフトとして揃っていることが散策を促している。加えて、ふれあいや人情の機微というコミュニケーションによる総合的な一体感が魅力であり、沿道景観要素と全体のバランスがとれていることである（図6）。

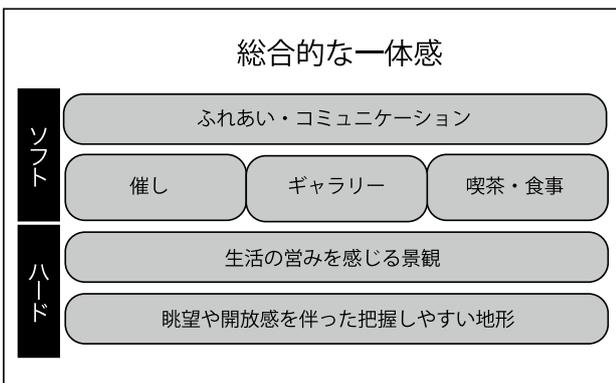


図6 「山苞の道」の魅力と沿道景観要素

4.2. 今後の課題と提案

4.2.1. 行事の継続と住民の交流や循環

行事の継続のためには、担い手の世代交代が地域の課題であるが、新旧住民の交流や、リタイヤ後に移り住んだ新住民がいずれ離れる時期に問題となる不動産の流動性を高めるなどへの対処も検討事項であろう。例えば地

域全体で、古い家屋の賃料収入を整備費にあてて貸し出すシステムなどの採用は、若い世代の参入を促し、望ましい活性化へのサポートとなろう。

地域が守ってきたルールを部分的に変更することで、土地に縁がなかった人々が参入しやすい環境になることは、景観の保守や行事の継続につながると思われる。

また、回遊バスを現状より小型のものとして台数を増加することも検討できるのではないだろうか。

4.2.2. 開発行為と景観の保持

地域の文脈とは異なるイメージの新しい建築物も既にあり、開発に対するより慎重な対応が必要になる。景観の継時性に配慮してある程度緩やかな協力を仰ぐことも必要であろうし、植栽により見え隠れさせる手法も選択肢のひとつである。

良好な景観を形成するためには、道路整備や施設整備も真に望まれるインフラとして整合することが肝要である。今後、歩道整備が延伸される折には、歩行者の安全確保のための機能を備えると共に、沿道景観要素と一体となった更なる検討が望まれる。

4.3. 今後継続予定の研究課題

今回導いたカテゴリーを参考に、他の街路景観において継続調査を行って沿道景観要素を詳細に検討する。生活景や貢献要素としてのキーワードを選出して沿道景観の貢献要素と継時性について取り組む。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ヒアリングにご協力頂きました山苞の会元会長倉富敏之氏と事務局長高山堅治氏、ならびに久留米市商工観光労働部 観光・国際課主査矢野功治氏、久留米広域市町村事務組合 事務局の皆様にご厚くお礼申し上げます。また、「山苞の会」会員の皆様ならびにアンケートにご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。なお、アンケートの集計にあたり、愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コースの平成23年度4回生 塩見敏弘、十亀梓沙、豊嶋英華、星野智美の協力を得ました。ここに記して感謝します。

注

1. 生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり p24-26 / 社団法人建築学会編 / 学芸出版社 / 2009

2. 「久留米まち旅博覧会」・「ほとめき歩き」資料／久留米市商工観光労働部 観光・国際課
3. 来て見てん山苞の道／山苞の道・景観継承の会山苞の会 NPO法人みのう地域循環デザインセンター／2008
「平成19年度全国都市再生モデル調査事業・地域資源を活かしたまちづくり」事業により作成

参考文献・資料

1. 生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり／社団法人建築学会編／学芸出版社／2009
2. 都市をつくる風景 「場所」と「身体」をつなぐもの中村良夫／藤原書店／2010
3. 暮らしの情報誌 筑後 Vol. 5／西日本新聞社／2011
4. 巨峰物語／巨峰開植50周年記念実行委員会 久留米市田主丸町田主丸2000／2007
5. TANUSHIMARU-NAVI.NET／
<http://www.kurume-hotomeki.jp/tanushimaru-navi/web-content/access.html>
6. 観光パンフレット 久留米ほとめき歩き 田主丸地区3コース 地徳 益生田 森部・石垣 編／財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会／2006
7. 観光パンフレット 四市弐町行楽べんとう 特選三段重ね 郷土料理 特産土産 体験観光／久留米広域市町村事務組合／2010

